

「自転車のまち推進計画」の取組状況一覧

○活動指標				
指標	前期計画		後期計画	
	目標値	H27	目標値	R元
自転車走行空間の整備延長	9.6km→25.4km	21.7km	21.7km→57.7km	49.9km
宇都宮ブリッツェンと連携した交通安全教室	16校/年間	8校	—	7校/年間
スクエアード・ストレイト方式による交通安全教室	6校/年間	14校/年間	—	14校/年間(H30)

・ 自転車走行空間の整備は着実に延伸しており、自転車の走行位置を明確化するとともに、安全性の高い自転車走行環境が整ってきている。  
 ・ 市内の全ての小学4年生に対する「子ども自転車免許事業」のほか、「宇都宮ブリッツェン」と連携した交通安全教室、中学生・高校生に対する「スクエアード・ストレイト方式による交通安全教室」、高齢者に対する「自転車シミュレーター」など子どもから高齢者までの各世代に交通ルール・マナーの周知が図られている。

施策事業	番号	重点事業	事業名	取組内容	実績	評価	課題	今後の方向性																																	
安全	ア	★	自転車走行空間のさらなる延伸	自転車が安全に走行できるよう、自転車専用通行帯や矢羽根型路面表示などの整備手法を活用し、安全性の高い自転車走行環境を創出する。	<b>【自転車走行空間の整備】</b> ・ 整備延長 49.9km/57.7km(86.5%)完了 後期計画において、28.2km整備 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14.5</td><td>16.9</td><td>16.9</td><td>17.6</td><td>21.7</td><td>40.0</td><td>40.0</td><td>45.8</td><td>49.9</td><td>57.7</td> </tr> </tbody> </table>	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)	14.5	16.9	16.9	17.6	21.7	40.0	40.0	45.8	49.9	57.7	◎	<b>【自転車走行空間の整備】</b> ・ NCCの形成を目指して通勤・通学等の移動実態や公共交通との連携を踏まえた自転車ネットワーク計画の見直し ・ コストの削減を考慮した整備形態の見直し	・ 自転車が利用しやすい自転車ネットワークを形成するため、自転車ネットワーク計画の見直しを行い、引き続き自転車走行空間整備を進めるとともに、より効率的に整備推進を図るため効果的な整備手法の検討が必要である。													
				H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)																												
	14.5	16.9	16.9	17.6	21.7	40.0	40.0	45.8	49.9	57.7																															
【広報周知】 ・ 広報紙やHPにおける整備状況や通行方法の周知(H29～) <b>【その他】</b> ・ 自転車走行空間整備に併せた走行実験(H24) ・ アンケートや検証結果を踏まえた安全性確保(H25) ・ 走行環境に対する意向調査(H26) ・ 利用状況調査(H26)	自転車走行空間は、目標の8割以上を整備した。																																								
イ		自転車走行における走行支障物件の撤去指導	自転車が安全に走行できるよう、路肩などに置かれている走行支障物件の不法占用防止に向けて、撤去指導や周知啓発を行い、自転車走行空間の安全性の向上を図る。	<b>【不法占用防止に向けた周知啓発】</b> ・ 広報紙やホームページにおける不法占用防止の周知(H28～) ・ 自転車走行空間の整備済み路線における自治会・沿道住民等へのチラシ配布(H28～) ・ 販売店を通じた自転車購入者への周知(H29) ・ ホームセンターの商品陳列箇所への「段差解消ブロック等の使用方法」のポスター掲示(H30～)	◎	<b>【不法占用防止に向けた周知啓発】</b> ・ 継続的な撤去指導や取り締まり	・ 自転車が安全に走行できるよう、路肩などに置かれている走行支障物件の撤去指導の取り締まり強化や不法占用車両への働きかけにより、自転車走行空間の安全性の向上を図る。																																		
安全啓発活動の実施	ウ	★	交通安全教室の充実	子どもから高齢者まで、各世代に応じ、基本的な交通ルールや自転車の正しい乗り方などを指導する交通安全教室を実施する。	<b>【各種交通安全教室の実施】</b> ・ 宇都宮ブリッツェンと連携した自転車安全利用教室(年間:7校程度) ・ スクエアード・ストレイト方式による交通安全教室(年間:14校程度) ※他市における事故発生を受け、令和元年度は開催見送り <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宇都宮ブリッツェンと連携した交通安全教室</td> <td>3</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td><td>9</td><td>7</td><td>16</td> </tr> <tr> <td>スクエアード・ストレイト方式交通安全教室</td> <td>5</td><td>7</td><td>9</td><td>9</td><td>14</td><td>14</td><td>16</td><td>14</td><td>-</td><td>6</td> </tr> </tbody> </table> ・ 自転車シミュレーター自転車教室(年間:15回程度) ・ 高齢者自転車教室、子ども自転車免許事業(市内小学校全70校) ・ 成人への自転車交通安全教育		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)	宇都宮ブリッツェンと連携した交通安全教室	3	5	7	7	8	7	7	9	7	16	スクエアード・ストレイト方式交通安全教室	5	7	9	9	14	14	16	14	-	6	○	<b>【小学生への交通安全教室】</b> ・ 継続的な取組の実施 <b>【中学・高校生への交通安全教室】</b> ・ 継続的な取組の実施 <b>【成人・高齢者への交通安全教室】</b> ・ 継続的な取組の実施 ・ 自動車ドライバーへの自転車通行帯の認知度向上	・ 子どもから高齢者までの各世代を対象に基本的な交通ルールや自転車の正しい乗り方などを指導する交通安全教室を実施する。 ・ 自動車ドライバーへの、自転車通行帯の認知度向上に向け、自動車教習所との連携を行う。
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)																															
宇都宮ブリッツェンと連携した交通安全教室	3	5	7	7	8	7	7	9	7	16																															
スクエアード・ストレイト方式交通安全教室	5	7	9	9	14	14	16	14	-	6																															
				【自転車関連事故の発生状況】 ・ R1:当時者数435人(うち 高齢者(102人,23.4%)、高校生以下(118人,27.1%)) ・ R2目標値:320件/年以下 R1実績値:428件/年(目標の約1.3倍) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事故件数</td> <td>533</td><td>562</td><td>509</td><td>421</td><td>429</td><td>354</td><td>342</td><td>409</td><td>428</td><td>320件</td> </tr> <tr> <td>死者数</td> <td>1</td><td>7</td><td>1</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>以下</td> </tr> </tbody> </table>		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)	事故件数	533	562	509	421	429	354	342	409	428	320件	死者数	1	7	1	3	2	1	1	2	1	以下	交通安全教室の開催数は目標を達成。 一方、事故件数はこれまでR2目標を一度も達成できておらず、R1実績で目標の1.3倍発生(特に高齢者や学生が多い)			
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)																															
事故件数	533	562	509	421	429	354	342	409	428	320件																															
死者数	1	7	1	3	2	1	1	2	1	以下																															

◎:順調に進んでいる(事業の達成度が8割以上)  
 ○:概ね順調に進んでいる(達成度6割以上8割未満)  
 △:遅れている(達成度6割未満)

	施策事業	番号	重点事業	事業名	取組内容	実績	評価	課題	今後の方向性
安全	安全啓発活動の実施	エ		自転車安全利用のための広報啓発活動の充実	地域や高校生、警察等と連携しながら、自転車利用者に直接安全利用を呼びかける街頭指導を行い、さらなるルール・マナーの向上を図る。また、安心して自転車が利用できるよう、自転車保険の加入を促進する。	<b>【呼びかけによる啓発】</b> ・交通安全教室での呼びかけ ・自転車の安全な利用のための街頭指導(年間:30回程度)(オリオン通りや自転車走行空間整備路線など) <b>【広報紙・市ホームページの活用】</b> ・安全な自転車利用の啓発 ・自転車損害賠償保険加入促進に向けた周知 <b>【自転車販売店との連携】</b> ・保険の加入促進に向けた啓発チラシを配布(H30～)	○ 街頭指導等を継続的に実施。保険加入は普及啓発活動を継続的に実施しているものの、加入率(約40%程度)の更なる向上が必要。	<b>【街頭指導の実施】</b> ・継続的な取組の実施 <b>【自転車損害賠償保険の加入促進】</b> ・継続的な取組の実施	・自転車交通量の多い交差点等を対象に、街頭活動による自転車利用者への交通ルール遵守の指導を行う。 ・安心して自転車が利用できるよう、引き続き自転車損害賠償保険の加入促進のため、自転車販売店と連携しながら、加入に向けた意識醸成を図る。
	安全を守る環境づくりの推進	オ		ヘルメットの着用・普及の促進	自転車用ヘルメットの着用・普及促進に向けて、その着用の重要性について広く周知啓発を行うとともに、「自転車安全利用応援店」認定事業の実施やヘルメットの普及に向けた仕組みなどを検討する。	<b>【ヘルメットの着用促進に向けたチラシの配布】</b> ・R1実績:37,366枚(対象:小学生から高校生とその保護者) <b>【自転車ヘルメット着用の促進】</b> ・広報紙・市ホームページによる着用促進の周知 ・自転車ヘルメット利用推進員による着用促進(H27～) ・自転車安全利用応援店の認定事業の開始(H26) <b>【自転車販売店との連携】</b> ・自転車販売店(40店舗)と連携してヘルメット着用・普及促進に向けた啓発チラシを配布	○ ヘルメット着用の普及に向けた多角的な広報活動を継続的に実施。ただし、着用率の更なる向上が必要。	<b>【ヘルメットの着用促進に向けた周知啓発】</b> ・様々な機会を活用した、有効性の周知啓発の実施 <b>【自転車販売店との連携】</b> ・継続的な取組の実施	・交通安全教室等で着用の有効性を説明するなど、引き続き周知啓発を実施するとともに、「自転車安全利用応援店」と連携しながらヘルメットの着用促進を図る。

○ 取組状況と今後の方向性

1 安全な走行空間の確保

- ・自転車走行空間の更なる延伸については、令和元年度末までに約49.9km整備し、目標とする57.7kmの8割を超えるなど着実に整備が進められている。自転車で安全に走行できるよう引き続き整備を進めるとともに、道路整備計画や通勤・通学の移動実態、公共交通との連携強化等を踏まえた自転車ネットワークの見直しや効率的・効果的な整備手法の検討が必要である。
- ・自転車走行における走行支障物件の撤去指導については、不法占用防止に向けた広報紙やチラシでの周知・啓発、自転車販売店と連携した購入者への周知、ホームセンターへのポスター掲示など多角的な広報啓発活動を継続的に実施してきた。引き続き走行支障物件の撤去指導や不法占用車両への働きかけなど継続的な周知・啓発が必要である。

2 安全啓発活動の実施

- ・交通安全教室の充実については、子どもから高齢者まで、各世代に応じ、基本的な交通ルールや自転車の正しい乗り方などを指導するため、宇都宮ブリッツェンと連携した自転車安全利用教室(年間:7校程度)や子ども自転車免許事業(市内小学校:全70校)の開催など幅広い世代を対象に交通安全教室を開催しており、開催数が目標を達成するなど着実な事業の推進が図られた。一方で自転車に関する交通事故件数は平成30年以降増加傾向にあることから、各世代を対象とした交通安全教室の継続とともに自動車教習所との連携などによりクルマの運転者に対する啓発活動を強化していく必要がある。
- ・自転車安全利用のための広報啓発活動の充実については、地域や高校生、警察等と連携しながら、自転車利用者に直接安全利用を呼びかける街頭指導を継続的に実施(年間:30回程度)し、ルール・マナーの向上に取り組んだ。また安心して自転車が利用できるよう、自転車保険の加入促進に向けて小学校から高校生とその保護者を対象に啓発チラシを配付して加入促進に取り組んできたものの、加入率は40%程度であることから、自転車販売店と連携した意識醸成など継続的に自転車保険への加入促進を図る必要がある。

3 安全を守る環境づくりの推進

- ・ヘルメットの着用・普及の促進については、着用の重要性について広く周知啓発を行うため、小・中・高校生と保護者へのヘルメット着用促進に向けたチラシ配布や広報紙での啓発など継続的に幅広く周知啓発を行ってきたものの、ヘルメットの着用率は低い状況であることから、引き続き周知啓発を継続的に実施するとともに、交通安全教室等での着用の有効性説明や自転車販売店との連携など、様々な機会を捉えてヘルメットの着用促進を図る必要がある。

○活動指標

指標	前期計画		後期計画	
	目標値	H27	目標値	R元
レンタサイクル拠点・利用者数	4箇所→14箇所 31,000人→41,000人	7箇所 45,582人	—	8箇所 47,590人
自転車の駅の設置数	36箇所	44箇所	—	55箇所
鉄道駅周辺の市営駐輪場収容台数	7,912台 →8,512台	8,692台	—	8,390台
中心市街地における市営駐輪場の利用者数	—	46,162人	70,000人/年間	124,990人

- ・ レンタサイクルは、利用料金の設定や登録方法の簡易性から好評を得ており、利用者数は目標を大幅に超えた。
- ・ 自転車の駅の設置については、公共施設や観光施設、コンビニエンスストア等の協力により、着実に設置数を増やしている。
- ・ 各駐輪場の利用状況に応じた収容台数の調整や利用促進に向けた周知啓発を行ったことにより、駐輪場の利用者が増加したとともに、放置自転車は減少した。

※放置自転車数の推移・・・1,840台(H26)→1,284台(R元)

快適

施策事業	番号	重点事業	事業名	取組内容	実績	評価	課題	今後の方向性																																										
回遊性の向上	ア		レンタサイクルの利用促進	<p>レンタサイクルの貸出場所の拡充に取り組むとともに、利用実態を踏まえ、利用料金の見直しなどを検討する。</p>	<p>【レンタサイクルの拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レンタサイクルの貸出状況の推移</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>H27(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レンタサイクル拠点数</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>34,277</td> <td>42,049</td> <td>45,662</td> <td>45,707</td> <td>45,582</td> <td>45,184</td> <td>45,893</td> <td>49,005</td> <td>47,590</td> <td>41,000</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各駐輪場の利用状況に応じた、設置台数の調整 (R1時点 貸出箇所:8箇所, 自転車数:177台(普通:122台, 電アシ:55台))</li> <li>・ 中心市街地のイベント開催時に使用料の減免(100円引き)</li> <li>・ 電動アシスト付き自転車の利用料金値下げ 300円/日→100円/日(R1～)</li> </ul> <p>【「おもてなしレンタサイクル」モデル事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内ホテルと連携しレンタサイクルを貸し出し(H22～H27)</li> </ul> <p>※現在は各ホテルに取り組みを移管</p>		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	H27(目標)	レンタサイクル拠点数	7	7	7	7	7	8	8	8	8	14	利用者数	34,277	42,049	45,662	45,707	45,582	45,184	45,893	49,005	47,590	41,000	◎	<p>レンタサイクルの利用数は目標値を上回ったことに加え、近年増加傾向。</p>	<p>【レンタサイクルの拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用時間を延長した場合の係員の負担増への対応</li> <li>・ 電動アシスト付き自転車の老朽化による更新等の検討</li> <li>・ 本市に適したレンタサイクル事業の実施手法の整理</li> <li>・ 利用時間や貸出場所などサービス向上策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の大半が市外からの来訪者である現状を踏まえ、サイクルツーリズム拡大の観点から、更なる利用の促進を検討する。</li> <li>・ 老朽化が進んでいる電動アシスト付き自転車の更新にあたっては、ニーズや利用のしやすさや等を考慮した車種(スポーツバイクの増加など)や運用形態(シェアサイクルなど)の導入について検討する。</li> </ul>								
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	H27(目標)																																								
レンタサイクル拠点数	7	7	7	7	7	8	8	8	8	14																																								
利用者数	34,277	42,049	45,662	45,707	45,582	45,184	45,893	49,005	47,590	41,000																																								
中心市街地における利用環境の向上	イ	★	中心市街地における良好な通行空間の確保と駐輪環境の向上	<p>駐輪場の利用促進に向けた周知啓発を引き続き行うとともに、放置自転車対策の強化に取り組み、良好な通行空間を確保する。また、市民ニーズに即した歩道上の空きスペースなどを活用した駐輪場の確保や、地元商店街などと連携を図りながら駐輪場の設置について検討するなど、駐輪環境の充実に取り組む。</p>	<p>【市営駐輪場の利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心市街地の市営駐輪場利用者数</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>31,650</td> <td>37,815</td> <td>41,899</td> <td>42,452</td> <td>46,162</td> <td>39,726</td> <td>50,721</td> <td>73,032</td> <td>124,990</td> <td>70,000</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中央1丁目駐輪場の収容台数の調整</li> <li>・ 定期利用者の待機解消のため、レイアウトの見直しを行い、駐輪可能台数を増加(160⇒180台)</li> </ul> <p>【放置自転車の撤去の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放置自転車の撤去</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>撤去回数</td> <td>222</td> <td>272</td> <td>313</td> <td>286</td> <td>313</td> <td>323</td> </tr> <tr> <td>撤去台数</td> <td>1,840</td> <td>1,713</td> <td>1,674</td> <td>1,553</td> <td>1,286</td> <td>1,284</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心市街地, JR宇都宮駅周辺での即時撤去実施(H26～)</li> </ul> <p>【短時間駐輪スポットの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存の補助制度の拡充による店舗敷地内への駐輪ラック等設置・支援(H24～)</li> <li>・ 中心市街地の自転車の利用実態と意向把握の実施(H29)</li> <li>・ 駐輪環境の充実に合わせた商店街との意見交換(H30)</li> <li>・ 官民の役割分担と公設平面駐輪場の整備箇所の検討(R1)</li> </ul> <p>【歩行者の安全性確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリオン通りにおける「押しチャリ」の実施(H24～)</li> </ul>	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)	31,650	37,815	41,899	42,452	46,162	39,726	50,721	73,032	124,990	70,000		H26	H27	H28	H29	H30	R1	撤去回数	222	272	313	286	313	323	撤去台数	1,840	1,713	1,674	1,553	1,286	1,284	◎	<p>市営駐輪場の利用数は目標を大幅に上回ったほか、放置自転車数も減少した。</p>	<p>【市営駐輪場の利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市営駐輪場の老朽化に伴う再整備と併せて利用拡大をねらいとした、設備更新等による一層の利用者利便性向上</li> </ul> <p>【放置自転車の撤去の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 即時撤去の実施場所や時間, 人員等の実施体制の検討</li> <li>・ 撤去範囲・頻度の見直し</li> </ul> <p>【歩行者の安全性確保及び駐輪スポットの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商店街等が主体的に取り組める手法や支援のあり方の検討</li> <li>・ 商店街や交通管理者, 道路管理者との合意形成・調整及び財源確保</li> </ul> <p>【JR宇都宮駅西側のLRTの導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自転車走行空間の確保に向けた関係機関との調整</li> </ul>	<p>【市営駐輪場の利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐輪場の再整備にあたっては、ニーズを踏まえ、ICTを活用した無人管理での運営形態などの導入について検討する。</li> </ul> <p>【放置自転車の撤去の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放置自転車については、引き続き取り締まりの強化を図ることで、違法駐輪の抑制と駐輪場利用の意識醸成を図る。</li> </ul> <p>【歩行者の安全性確保及び駐輪スポットの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリオン通りの「押しチャリ」については、取組の周知啓発を継続する。</li> <li>・ 駐輪スポットについては、慢性的な放置台数が多い馬場町付近及び表参道スクエア付近への設置について商店街との協働も踏まえた検討を継続する。</li> </ul> <p>【JR宇都宮駅西側のLRTの導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JR宇都宮駅西側へのLRT導入と併せて、自転車走行空間が確保出来るよう、大通りの道路空間再編について道路管理者などの関係機関と協議を行いながら検討していく。</li> </ul>
H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標)																																									
31,650	37,815	41,899	42,452	46,162	39,726	50,721	73,032	124,990	70,000																																									
	H26	H27	H28	H29	H30	R1																																												
撤去回数	222	272	313	286	313	323																																												
撤去台数	1,840	1,713	1,674	1,553	1,286	1,284																																												

	施策事業	番号	重点事業	事業名	取組内容	実績	評価	課題	今後の方向性
快適	サイクリストへのサポート	ウ		自転車の駅の充実	<p>自転車利用者の休憩スポットである自転車の駅について、コンビニエンスストアへの設置に加え、新たに飲食店などへの設置を進める。</p> <p>【自転車の駅の設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設や観光施設、コンビニエンスストア、飲食店など55箇所に設置</li> </ul> <p>【自転車の駅の周知啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「2018 宇都宮シクロクロス」の会場で開設式を開催(H30)</li> <li>自転車マップや「まちかど情報マップ」への掲載(H23～)</li> </ul>	○	<p>設置数は着実に増加しているものの、認知度は低い。</p>	<p>【自転車の駅の拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自転車の駅」の継続的な設置・設備の充実</li> <li>「自転車の駅」の認知度を高めるため、周知・PRの強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者からの満足度が高い自転車の駅のあり方について、サイクリングルート周辺など、一定の利用が見込まれる箇所への設置を促進するとともに、民間主導での設置意向を高める働きかけを行う。</li> </ul>
	サポート制度の創出	エ		自転車利用に係る民間企業などに対する支援	<p>民間の活力を取り入れた自転車のまちづくりを推進するため、バス事業者等へのバス停付近への駐輪場整備の支援に取り組むとともに、民間と連携した駐輪環境の創出など、新たな仕組みを検討する。</p> <p>【民間へのサポート制度の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助を活用したサイクル・アンド・バスライド用駐輪場の整備(H26)</li> <li>駐輪環境の創出を目的とした商店街への意向調査(H29)</li> <li>バス停付近への駐輪場整備に向け、地権者との意見交換(H30～)</li> <li>民間駐輪ラックの設置について商店街との意見交換(H30～)</li> </ul>	○	<p>民間事業者との連携による駐輪場所確保に向けた検討を進めている。取組の更なる推進に向けて継続的な検討・調整が必要。</p>	<p>【民間へのサポート制度の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>駐輪場の適正な場所への設置及び財源確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間駐輪ラックについては、運用責任を民間に委託することや、空き地の有効活用等を含め、官民での役割分担による整備・運用・サポート形態を継続するとともに、制度の活用に向けた検討を行う。</li> </ul>

<p>○ 取組状況と今後の方向性</p> <p>1 回遊性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レンタサイクルの利用促進については、貸出場所の増設や電動アシスト付自転車の利用料金を値下げするなど、利便性の向上に努めた結果、レンタサイクルの利用者数が令和元年度47,590人と前期計画の目標値41,000人を上回るとともに、毎年利用者が増加するなど、市内の回遊性向上に寄与した。今後も利用者から利用時間の延長や貸出場所の増設などの要望もあることから、効果的・効率的な事業運営の検討と合わせて、ICTの導入やシェアサイクル化など更なる利便性の向上について検討する必要がある。</li> </ul> <p>2 中心市街地における利用環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地における良好な通行空間確保と駐輪環境の向上については、市営駐輪場の利用者は令和元年度124,990人と目標の70,000人を大幅に上回った。今後は駐輪場利用者の拡大に向けて、施設の老朽化に伴う再整備の検討や利便性・効率性向上のためのICTを活用した管理運営のあり方などについて検討する必要がある。</li> <li>放置自転車対策については、自転車の撤去台数が平成26年度の1,840台から令和元年度には1,284台に減少するなど、通常撤去や即時撤去の強化により放置自転車台数は減少しており、中心市街地の良好な通行環境を確保できた。今後は中心市街地のさらなる良好な通行環境を創出するため、引き続き周知啓発や撤去を強化する必要がある。</li> <li>オリオン通りなどの駐輪環境の向上を図るため、慢性的に放置自転車が多いエリアへの駐輪スポット設置について、昨年度末から地元商店街との協働により、駐輪ラック設置の社会実験を実施している。今後も慢性的に放置自転車が多いエリアへの駐輪スポット設置について地元商店街と協働で検討していく必要がある。</li> </ul> <p>3 サイクリストへのサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自転車の駅の充実については、自転車の駅をサイクリングルート沿線の公共施設や観光施設、コンビニエンスストア等に設置を進め、令和元年度までに55箇所設置し、サイクリストが気軽に休憩できる環境の整備を行ったものの、自転車の駅の認知度や利用頻度はまだ低い状況にある。今後ともサイクリストが気軽に利用できるようサイクリングルート沿線への設置拡大を進めるとともに、周知・PRの強化を図っていく必要がある。</li> </ul> <p>4 サポート制度の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自転車利用に係る民間企業などに対する支援については、民間企業の活力を取り入れた自転車のまちづくりを推進するため、バス事業者等へのバス停付近への駐輪場整備の支援に取り組むとともに、民間事業者と連携した駐輪環境整備を進めた。取組の更なる推進に向けて継続的な検討・調整が必要である。</li> </ul>
---

○活動指標

指標	前期計画		後期計画	
	目標値	H27	目標値	R元
モビリティセンター利用者数 (宮サイクルステーション)	-	5,194人	5,692人/年間 →6,200人/年間	3,969人

・宮サイクルステーションについては、スポーツバイクの普及や貸出自転車の老朽化により、レンタサイクルの利用者が減少し、来観者数は減少しているものの、「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上に寄与している。

楽しく

施策事業	番号	重点事業	事業名	取組内容	実績	評価	課題	今後の方向性	
プロスポーツとの連携・宮サイクルステーションの拡充	ア	★	ジャパンカップサイクルロードレースの開催及び周辺環境の向上	ジャパンカップサイクルロードレースの受け入れ態勢などをさらに拡充させるとともに、世界規模の大会の誘致に取り組むなど「自転車のまち宇都宮」のブランド力の一層の向上を図る。また、ジャパンカップコースへの案内など、サイクリストへのサービスの充実に取り組み、広域からの恒常的な誘客を促進する。	<b>【ジャパンカップサイクルロードレースの充実】</b> ※継続して実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第25回記念大会の開催、クリテリウムコースの延長(H28)</li> <li>・UCI(国際自転車競技連合)の競技規則改定を契機とした出場選手数の大幅増(H30)</li> <li>・UCIによる新たなレースカテゴリー導入に伴い、世界最高峰の「ワールドツアー」に次ぐ「UCIプロシリーズ」に日本で唯一認定</li> </ul> <b>【ジャパンカップコースを活用した誘客促進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JR宇都宮駅から森林公園までの案内看板等の設置(H28)</li> <li>・ロードレースメイン会場(森林公園駐車場)内におけるコース案内看板等の設置</li> <li>・コース上にルートを示す路面表示の整備(H28)</li> <li>・ろまんちっく村から森林公園までの案内看板等の整備(H29)</li> <li>・大谷地区から森林公園までの案内看板の設置(H30)</li> </ul> <b>【ジャパンカップコース周辺における拠点整備】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の整備案やゾーニング、民間活力の導入可能性に関する調査(H30)</li> <li>・森林公園駐車場の樹木を伐採し、利用スペースを拡大するとともに回遊性を向上(H30, R1)</li> </ul>	◎	大会の更なる魅力向上に向けた取組と開催環境の向上に向けた整備等により、10万人を超える観客が観戦するとともに、「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上に寄与している。	<b>【ジャパンカップサイクルロードレースの充実】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロードレースとクリテリウムにおけるレースの更なる高質化</li> <li>・大会の魅力発信の強化</li> <li>・開催環境の更なる向上</li> <li>・付帯イベントの更なる充実</li> </ul> <b>【ジャパンカップコースを活用した誘客促進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャパンカップコースの安全性の向上と情報発信強化</li> <li>【ジャパンカップコース周辺における拠点整備】                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林公園の機能再編に向けた、関係課や関係団体との調整</li> </ul> </li> <li>【JR宇都宮駅西側LRT導入】                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・JR宇都宮駅西側へのLRT導入後も継続して「ジャパンカップクリテリウム」の開催に向けた関係団体との調整</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャパンカップサイクルロードレースの更なる魅力向上を図り、「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上をはじめ、地域経済の活性化やシビックプライドの醸成等、大会開催に伴う効果を高める。</li> <li>・ジャパンカップの開催環境向上や、恒常的な誘客に向けて、森林公園の機能向上を図る。</li> <li>・JR宇都宮駅西側LRT導入後においても、引き続きクリテリウムが開催できるよう、レース幅員を確保した道路空間再編案について、レース関係者や関係機関と協議を行っていく。</li> </ul>
			プロ選手と連携した自転車教室やサイクルイベントの開催	プロサイクルロードレースチームの宇都宮ブリッツェンと連携し、自転車利用の楽しさを学びながら、交通ルールやマナーの向上、健康増進や介護予防などを目的とした様々な自転車教室を実施する。また、競輪選手と連携し、競輪場の認知度の向上を目的とした自転車の楽しさを伝えるサイクルイベントを実施する。	<b>【自転車安全利用教室】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車安全利用教室の開催(H23～)(年間:7回程度)</li> </ul> <b>【いきいき健康自転車教室】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいき健康自転車教室の開催(H24～)(年間:3回程度)</li> </ul> <b>【体力向上サポーター派遣事業】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上サポーター派遣事業の開催(H28～)(年間:6回程度)</li> </ul> <b>【競輪選手によるサイクルイベント】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元競輪選手とのふれあいを目的とした体験型イベント「競輪フェスティバル」等を実施</li> </ul> <b>【プロスポーツチームと連携した自転車に親しむきっかけづくり】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリングターミナルにおける自転車教室(補助輪外し)の開催</li> <li>・スポーツ振興財団による親子ふれあいサイクリングの開催</li> </ul>	○	自転車教室やサイクルイベントを多角的・継続的に実施している。ただし、参加者層は自転車への興味関心が高いユーザーが中心となっている。	<b>【自転車安全利用教室】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮ブリッツェンとの連携強化</li> </ul> <b>【いきいき健康自転車教室】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズに応じた教室内容を検討するほか、参加者数を増やすため認知度を高める取組の強化、参加しやすい環境づくり</li> <li>・高齢者自身の健康意識を高める機会の創出</li> </ul> <b>【競輪選手によるサイクルイベント】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八幡山公園や関係団体との協力体制の強化及び魅力あるイベントの実施</li> </ul> <b>【プロスポーツチームと連携した自転車に親しむきっかけづくり】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体との協力体制の強化及び魅力ある自転車教室・イベントの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロスポーツ選手との連携強化やニーズに応じた教室内容を検討するほか、参加しやすい環境づくりの創出</li> <li>・一般市民を対象としたサイクルイベントの開催と併せて、健康増進や介護予防を呼びかけることで、健康への意識を高める。</li> </ul>

施策事業	番号	重点事業	事業名	取組内容	実績	評価	課題	今後の方向性																																	
楽しく 自転車のまち 宇都宮のさらなる PR	ウ	★	宮サイクルステーションの充実	自転車の利用促進の拠点施設として、スポーツバイクのレンタルやスポーツバイクセミナーなどを実施するとともに、さらに利用者ニーズを踏まえたサービスの充実などに取り組み、自転車のまちのシンボルとして広く市内外にPRする。	<b>【宮サイクルステーションの充実・拡充】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮サイクルステーションの運営(H25本格実施)</li> <li>利用者数</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2 (目標)</td> </tr> <tr> <td>来館者数</td> <td>6,296</td> <td>4,725</td> <td>5,610</td> <td>5,692</td> <td>5,194</td> <td>5,687</td> <td>5,231</td> <td>5,025</td> <td>3,969</td> <td>6,200</td> </tr> <tr> <td>レンタサイクル利用者数</td> <td>883</td> <td>602</td> <td>852</td> <td>1,173</td> <td>1,147</td> <td>853</td> <td>754</td> <td>753</td> <td>521</td> <td>-</td> </tr> </table>		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2 (目標)	来館者数	6,296	4,725	5,610	5,692	5,194	5,687	5,231	5,025	3,969	6,200	レンタサイクル利用者数	883	602	852	1,173	1,147	853	754	753	521	-	○ 来館者数は目標の6割を超えているが、近年減少傾向にある。「自転車のまち」のブランド力向上に寄与している	<b>【宮サイクルステーションの充実・拡充】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数の減少への対応</li> <li>利用者ニーズを踏まえた機能拡充</li> <li>レンタサイクルの老朽化による更新・車種切り替えの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用が減少傾向にある宮サイクルステーションのサービス拡充や情報発信を図るとともに、民間企業との連携を含めた休憩施設となり得る拠点機能の拡充に向けた検討を行う。</li> <li>利用状況やニーズに応じた機能拡充や施設規模等の検討、関係機関との協議・調整を行う。</li> </ul>
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2 (目標)																														
	来館者数	6,296	4,725	5,610	5,692	5,194	5,687	5,231	5,025	3,969	6,200																														
レンタサイクル利用者数	883	602	852	1,173	1,147	853	754	753	521	-																															
エ	★	自転車のまちのPR	市民一人ひとりが自転車のまちづくりに対する愛着や誇りを持ち自転車を利用できるよう「自転車の日」などを設定し、市民意識の醸成を図るとともに、自転車のまちのブランド力を高めるため、「自転車のまち宇都宮」のシティプロモーションとして市内外に広くPRする。	<b>【会議等での発表】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウムや講習会等での発表や広報紙への寄稿</li> <li>メディアを活用したPR実施</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>基準値</td> <td>実績</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>市民満足度</td> <td>H22:29.6%</td> <td>R元27.7%</td> <td>50%</td> </tr> </table>		基準値	実績	目標値	市民満足度	H22:29.6%	R元27.7%	50%	△ 多様な機会を捉えて継続的にPRを実施しているものの、市民が「自転車のまち」として捉え切れていない。	<b>【自転車のまちのPR】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自転車のまち宇都宮」をPRするための効果的な手法の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市のSNS等を有効活用しながら、引き続き広域的な広報を展開する。</li> <li>市民に、本市が実施している取り組みを認知してもらうためのPRを行う。</li> </ul>																										
	基準値	実績	目標値																																						
市民満足度	H22:29.6%	R元27.7%	50%																																						
オ			シクロクロスやサイクルピクニック、ブルベなどに対する支援等に取り組むとともに、その他自転車競技(ツール・ド・とちぎ、国民体育大会など)の実施にあたり、関係機関と連携を強化し、「自転車のまち宇都宮」を広く市内外にPRすることで自転車を活用した交流人口の拡大や誘客を促進する。	<b>【サイクルイベントの開催・情報発信】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>宇都宮シクロクロスの開催</li> <li>宇都宮ブリッツェン監修によるサイクルツアーの開催</li> <li>本市のサイクルイベントにおけるPRブースの出展</li> </ul> ①サイクルピクニック ②ツール・ド・とちぎ(令和3年度以降実施予定なし) ③ブルベ(令和元年度で市からの後援活動終了) ・広報うつのみやを活用した広報支援	○ 継続的なイベント支援及び広報活動にを実施している。	<b>【サイクルイベントの開催・情報発信】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな誘客を図るための付帯イベントやPR手法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇都宮ブリッツェンと連携した自転車教室や競輪選手によるサイクルイベントについても取り組み、プロ選手とのふれあいを通じた自転車の魅力向上を図る。</li> <li>民間が主体となった啓発活動を積極的に誘致するとともに、地域に根付いたリーダーの養成などを進めることにより、効率的かつ効果的な自転車利用促進やマナー向上を図る。</li> </ul>																																		

○ 取組状況と今後の方向性

1 プロスポーツとの連携・宮サイクルステーションの充実

- ジャパンカップサイクルロードレースの開催及び周辺環境の向上については、大会の魅力向上に向けた取組と受け入れ態勢などの開催環境の向上に向けた整備等により、10万人を超える観客が観戦するなど、国内外からの恒常的な誘客を促進するとともに、「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上に大きく寄与した。今後ともジャパンカップやそのコースを活用した自転車のまち宇都宮の魅力発信や誘客を図ることが重要であり、年間を通じた走行環境向上や安全性確保を図るとともにブランド力を活かした広域的なPR活動を行っていく必要がある。
- プロ選手と連携した自転車教室やサイクルイベントの開催については、宇都宮ブリッツェンと連携し、自転車利用の楽しさや交通ルールの周知、健康増進などを目的とした自転車教室やサイクルイベントを多角的・継続的に実施した。今後とも継続的に開催していけるようプロスポーツ選手との連携強化を図るとともに、参加者が自転車への関心が高いユーザー層が中心となっていることから、年齢や体力に関わらず幅広い市民に参加してもらえるよう、自転車利用者のニーズに応じた教室内容の検討や、参加しやすい環境づくりに取り組んでいく必要がある。
- 宮サイクルステーションの充実については、本市の自転車利用促進の拠点施設として、スポーツバイクのレンタルやスポーツバイクセミナー等を実施しており、「自転車のまち」のシンボルとして自転車のまちのブランド力向上に寄与しているが、来館者数は令和元年度3,969人と目標6,200人の6割にとどまっており減少傾向にあることから、老朽化したスポーツバイクの更新や情報発信機能の充実、レンタサイクルを活用したサイクリングツアーの開催など多様な利用者ニーズに対応できるよう「自転車のまち宇都宮」の拠点施設としての機能拡充や施設規模等について検討していく必要がある。

2 自転車のまち宇都宮のさらなるPR

- 自転車のまちのPRについては、自転車のまちのブランド力の向上が図れるよう、「自転車のまち宇都宮」のシティプロモーションとしてシンポジウムの開催や広報紙・HP、メディア等を活用した継続的なPR活動を行ってきたが、市民の「自転車のまち」に対する満足度は目標値の50%に対して27.7%と低い水準であることから、引き続きメディア等を活用しながら様々な自転車に関する取り組みの周知に努めるとともに、認知度が高く全国で活躍する宇都宮ブリッツェンを始め民間と連携した市内外への情報発信、SNS等を活用したプッシュ型の情報発信など効果的なPR活動の検討が必要である。
- サイクルイベントの開催及び開催支援については、シクロクロスやサイクルピクニック、ブルベ等に対して継続的な開催支援・広報活動を行い、自転車を活用した交流人口の拡大や誘客を促進してきたが、令和元年度にツール・ド・とちぎが終了し、ブルベの後援活動も終了したことから、新たなサイクルイベント等の誘致を図っていく必要がある。

健康とエコ	○活動指標				実績	評価	課題	今後の方向性							
	指標	前期計画	目標値	R元											
	出前講座開催数(H30設定)	—	—	8回(累計)	6回										
				・ 市内の民間企業の従業員を対象とした出前講座を実施し、自転車のメリットや本市の取組、他企業の事例などを紹介することにより、自転車利用による健康意識の醸成が図られている。											
健康とエコ	施策事業	番号	重点事業	事業名	取組内容	実績	評価	課題	今後の方向性						
	環境負荷の低減	ア	★	自転車通勤の促進	<p>自転車通勤の促進に向けて、民間企業に対するモビリティ・マネジメントを実施し、自転車利用による環境や健康に対する効果などについて情報提供を行うとともに、自転車通勤の効果を体感できるモニター事業に取り組み、自動車通勤から自転車通勤への転換を促進し、環境負荷の低減や健康増進を図る。</p>	<p>【自転車通勤の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自転車通勤の実態を把握するため、清原工業団地と平出工業団地の企業を対象にアンケートを実施(H29)</li> <li>・ 自転車通勤啓発パンフレット作成(H29)</li> <li>・ 自転車通勤の促進を図るため、市内に立地する民間企業にアプローチを行い、出前講座を開催(H30～)</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>目標値</th> <th>R元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出前講座開催数(H30設定)</td> <td>8回(累計)</td> <td>6回</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 出前講座の周知・PRを図るため、健康ポイントアプリに掲載(R1～)</p>	指標	目標値	R元	出前講座開催数(H30設定)	8回(累計)	6回	○	<p>【自転車通勤の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座の周知、PR及び内容の充実</li> <li>・ 効果的な事業手法の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座の内容の充実を図る(雇用側のメリット(社員の健康増進や通勤コストの削減)を打ち出すなど)ことと併せて、企業側の協力・支援を受けられるよう企業との連携強化が必要である。</li> <li>・ 民間企業に対するインセンティブ制度を検討する。</li> </ul>
指標	目標値	R元													
出前講座開催数(H30設定)	8回(累計)	6回													
	健康増進のPR	イ		健康増進への情報発信	<p>自転車利用による健康増進への効果を市民に広くPRし、健康増進の意識の向上を図ることで自転車利用を促進する。</p>	<p>【自転車利用による健康増進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自転車通勤の促進を図るため、企業や従業員等を対象とした出前講座の開催(再掲)</li> <li>・ 自転車の走行距離等に応じてポイントを付与し、貯まったポイントでサービスや特典が受けられる健康ポイント事業の実施(H30～)</li> </ul> <p>参加者数(R2.5月31日現在) 18,692人</p>	◎	<p>【自転車利用による健康増進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者等と連携した効果的なPR方法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自転車を通じた健康志向の高まりを踏まえ、引き続き自転車利用による健康増進への効果を市民に広くPRし、健康増進の意識の向上を図る。</li> <li>・ 自転車利用も対象とした宇都宮市独自の健康ポイント事業と連携することにより、市民の健康増進の意識の向上を図る。</li> </ul>						

○ 取組状況と今後の方向性

1 環境負荷の低減

・ 自転車通勤の促進については、工業団地立地企業を対象としたアンケート実施、啓発パンフレットの作成、企業や従業員を対象とした出前講座の開催(累計:6回)などにより、自転車利用による環境や健康に対する効果等の情報提供を行い、自転車通勤の促進に向けた取り組みを進めてきたが、従業員の通勤手段の転換にはあまり結びついていない。引き続き企業・従業員等を対象とした出前講座を開催するとともに、従業員にとどまらず雇用者側のメリット(企業としての環境負荷低減の実績、従業員の健康増進や通勤コスト削減等)についてもアピールするなど、内容の充実を図る必要がある。

2 健康増進のPR

・ 健康増進への情報発信については、自転車通勤の促進の取り組みと連携して、企業や従業員を対象とした出前講座において自転車利用による健康増進の効果などのPRを実施している。また健康ポイント事業においても、自転車の走行距離に応じたポイント付与を開始し、参加者数が順調に増加していることから(令和2年5月末現在:18,692人)、健康のための自転車利用に関する市民意識は高まっている。自転車の利用に関して通勤時等の交通手段としてはあまり利用されていないことから、引き続き民間企業対象の自転車通勤の促進のための出前講座などを活用して健康ポイント事業への加入促進を働きかけていくとともに、全ての市民を対象とした健康増進のための自転車利用のPRの強化を図っていく必要がある。



○活動指標

指標	前期計画		後期計画	
	目標値	H27	目標値	R元
バス停付近への駐輪場整備箇所数	—	7箇所	7箇所→13箇所	12箇所
LRT停留場付近への駐輪場整備箇所数	—	—	停留場付近への駐輪場設置に向けて、民間事業者との連携を図りながら、段階的に整備を進めていく。	
自転車マップ配布数	—	40,200部	—	66,300部

- ・ 公共交通と自転車のつながりを強化するため、公共交通との結節点に駐輪場を整備することにより、自転車利用の促進が図られている。
- ・ 自転車マップについては、サイクリングルートや自転車の駅、観光スポットなどを掲載し、宮サイクルステーションや観光案内所、サイクルイベント等で広く配布した。

つながる

施策事業	番号	重点事業	事業名	取組内容	実績	評価	課題	今後の方向性																				
公共交通との連携強化	ア	★	交通結節点における自転車利用の促進	ネットワーク型コンパクトシティの形成やLRTの導入をはじめとした公共交通ネットワークの構築を見据え主要なLRT停留場付近に駐輪場を新設するとともに、バス停付近への駐輪場整備に取り組むなど、公共交通と自転車のつながりを強化することで、自転車利用を促進する。	<p>【バス停付近への駐輪場整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市有地や公共施設、民間施設の既存駐輪場を活用した駐輪場の検討・整備</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者に対し、アンケート調査を実施(R1)</li> <li>【バス停付近の駐輪場のPR】 ※継続して実施</li> <li>・ 駐輪場が整備されているバス停を表示したバス路線マップの配布</li> <li>【LRT停留場付近への駐輪場整備】</li> <li>・ トランジットセンター等の駐輪場の設計</li> <li>【LRTと自転車の連携強化】</li> <li>・ 自転車の積載について検討</li> <li>【JR宇都宮駅西口における駐輪場整備】</li> <li>・ 駐輪場を含む駅前広場の再整備等にかかる検討(H30)</li> <li>・ 指定管理者から利用状況等について聞き取り調査(R1)</li> <li>【JR宇都宮駅東口における駐輪場整備】</li> <li>・ 令和2年3月に駐輪場の竣工・引渡し(R2.4より供用開始)</li> </ul>	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2 (目標)	3	4	4	7	7	8	9	11	12	13	○	<p>【バス停付近への駐輪場整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用率の低い駐輪場の利用促進</li> <li>・ 整備効果の高い場所への駐輪場整備</li> <li>【LRT停留場付近への駐輪場整備】</li> <li>・ 駐輪場の管理運営方法の検討</li> <li>【LRTと自転車の連携強化】</li> <li>・ LRT車両への自転車積載について、軌道運送事業者である宇都宮ライトレール㈱との調整</li> <li>【JR宇都宮駅西口における駐輪場整備】</li> <li>・ 利用状況等を踏まえた施設規模の整理</li> <li>・ 施設配置の検討にあたり、交通管理者や道路管理者などの関係機関との協議・調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バス停付近の駐輪場の中には、利用率が低い箇所も存在することから、沿線住民への利用の働きかけを実施する。</li> <li>・ 新たに整備されるLRTの停留場付近に駐輪場を設置するとともに、将来的にLRTへのオフピーク時における自転車積載について検討し、公共交通と自転車のつながりを強化することで、自転車利用を促進する。</li> <li>・ 駅前広場の再整備に向けた計画と合わせて、利用状況等に応じた施設規模や配置を検討する。</li> </ul>
H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2 (目標)																			
3	4	4	7	7	8	9	11	12	13																			
広域的な周遊促進	イ		広域的なサイクリングルートの設定	自転車を活用した広域的な周遊促進につながるよう、サイクリストのニーズを踏まえ、市外の観光地などへつながるサイクリングルートを設定し、広くルートをPRする。	<p>【サイクリングルートの設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大谷地区とろまんちっく村を結ぶルートの設定(H29)</li> <li>・ 広域なサイクリングロードを設定(北西、南西、北東)</li> <li>⇒郊外部では「走れば愉快になれる11ルート」を、中心部で3ルートを設定</li> <li>【自転車マップの更新・PR】</li> <li>・ マップの記載ルートや掲載コンテンツの一部見直し・追加(H24へ)</li> <li>・ 「宇都宮サイクルピクニック」のコースをマップに追加(H25)</li> <li>・ 地域版自転車マップの作成(H25)</li> </ul>	○	<p>【サイクリングルートの設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魅力ある広域的なサイクリングルートの設定と周知方法</li> <li>・ 国が掲げるモデルルートには市内のサイクリングルートが設定されていない</li> <li>【自転車マップのPR】</li> <li>・ マップ内に掲載している内容の充実</li> <li>・ マップの配布場所の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国が掲げるモデルルート(先進的なサイクリング環境の整備を目指すルート)に市内のサイクリングルートが設定されるよう、走行空間と受入環境を整備するとともに、既存コンテンツを活用した魅力づくりを検討する。</li> </ul>																				
	ウ	★	サイクリングロードの整備延伸	田川・山田川などのサイクリングロードの整備と併せて、新たに広域的に連続した快適な自転車走行空間を確保し、日常利用のほかレジャーなど多様な自転車利用を促進する。	<p>【サイクリングロードの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サイクリングロード整備基本計画の策定(H25)</li> <li>・ 鬼怒川サイクリングロード周回コース(約8km)の整備(H28)</li> <li>・ 山田川サイクリングロードの整備(約6km)</li> <li>・ 安全走行の注意喚起やルート案内などのサイン表示の設置</li> </ul>	◎	<p>【サイクリングロードの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 走行動線を的確に予測した、適切な設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鬼怒川、田川などのサイクリングロード整備により、新たに広域的に連続した快適な自転車走行空間を確保し、日常利用のほかレジャーなど多様な自転車利用を促進する。</li> </ul>																				

○ 取組状況と今後の方向性

1 公共交通との連携強化

- ・ 交通結節点における自転車利用の促進については、ネットワーク型コンパクトシティの形成やLRTの導入をはじめとした公共交通ネットワークの構築を見据え、整備を進めているLRT沿線についてもトランジットセンター等への駐輪場設置について具体的な検討を進めている。また、バス停付近への駐輪場は令和元年度末で12か所に整備されており目標とする13か所の9割以上を達成した。今後とも自転車利用促進やクルマからの利用転換を進めるため、利便性の高い公共交通ネットワークの構築に合わせて、需要等を見極めながら鉄道やLRT、バスと連携した駐輪場整備を進めるとともに乗継の利便性向上を図っていく必要がある。

2 広域的な周遊促進

- ・ 広域的なサイクリングルートの設定については、サイクリストのニーズを踏まえ、周辺市町と連携して市外の観光地などへつながる広域サイクリングルートを6ルート設定するとともに、自転車マップの作成やホームページ等への掲載などルートのPRを図ってきたが認知度がやや低い。今後は国が掲げるモデルルートへの設定を目指して、県や周辺市町と連携を図りながら安全対策や案内看板設置等の走行環境の整備や自転車の組み立てスペース・休憩所の設置などの受け入れ環境の整備、ルート沿線の魅力づくり等について検討を進めていく必要がある。
- ・ サイクリングロードの整備延伸については、新たに広域的に連続した快適な自転車走行空間を確保し、日常利用のほかレジャーなど多様な自転車利用を促進するため、鬼怒川サイクリングロード周回コース(約8km)や山田川サイクリングロード(約6km)の整備、ルート案内などのサイン表示等の設置を進めた。引き続き鬼怒川や田川等のサイクリングロードの整備を進めるとともに、通勤・通学等で利用されている他の自転車ネットワークとの接続や広域サイクリングルートとの接続など、サークルスポーツや観光振興、通勤・通学など多様な活用が期待される利便性の高い自転車ネットワークの構築について検討していく必要がある。